

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年 3 月 25 日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670104258号
法人名	株式会社さくら会
事業所名	グループホームさくら
所在地	鹿児島市福山町958-1 (電話) 099-278-0550
自己評価作成日	平成25年2月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	-----------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年3月18日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・施設の中や近くに農園、果樹園をもち、食に力を入れ、栄養士が食事(主菜・副菜)を作っています。
- ・おやつは、10時と15時になつかしい手作りの物を提供し、食事にはごはんや汁物の他に必ず3品以上を用い、栄養バランスを考えた食事の提供を行っています。
- ・何よりも利用者を第一と考え、皆様に安心して楽しい生活を送って頂くため、誠心誠意、心をつくした支援に努めています。
- ・施設には、自家発電の設備を整備し、スプリンクラーも設置して防災、防火対策を強化しています。
- ・具合の悪い方については、専門の医療機関と連携を取り、内科、外科、歯科の往診があり、看護師も常勤しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは鹿児島市郊外の小規模多機能ホームと隣接して建てられた自然豊かな田園地帯に佇んでいる。自家発電や、災害時には地域住民の避難場所として開放の準備もあり、台風時に一人暮らしの地域住民を受け入れた経験もあるなど地域の信頼を得られている。

運営者は食への関心も高く、栄養士の指導のもとバランスの良い食事と手づくりおやつ、繊維質の多い食材選び、また冷凍食品を一切使わないなど利用者の食の楽しみと健康への気遣いが伺われる。

隣接した小規模多機能ホームには合同でイベントや行事を楽しむ広いホールも完備され利用者の憩いの場となっている。

医療機関との連携も取れており、利用者、家族の要望や意向を把握し医師をはじめ管理者、職員で共有し個々に添ったケアは家族の安心が得られる体制である。

職員は心を持って接するという理念のもと日々実践し、利用者が穏かで安心して暮らせるホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	勉強や定期ミーティングで「心」について話し、利用者のみならず地域の方々に対し、どんな心遣いで接するのか意識付けしている。	ホームは運営者の祖父の介護体験をもとに設立され、利用者や地域の方々への配慮を考慮し、理念は「心」を軸に掲げられている。月一回の全体ミーティング時に無記名で改善点、問題点などを話し合い、気づきを通して反省し、職員間の共通理念として再確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏祭り等、地域住民への案内も積極的に行い、日常的な交流ができるよう取り組んでいる。利用者家族や近所の方から野菜の差入れを頂いたり、常に地域の方々とお付き合いを密にしている。	ホーム主催の夏祭りは回覧板の活用で地域住民の参加が多数ある。警察、消防署の協力で高齢化に伴う振り込め詐欺の寸劇や緊急時対応の講習などもある。近隣住民からの野菜の差し入れもあり、自治会に加入し日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	随時、地域の方々からの認知症の相談を受けている。運営推進会議で「認知症」について理解を深めて頂き、地域の高齢者の方々の暮らしに役立つように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況、ホームの運営状況が報告され、それに対しての意見等、参加者全員で話し合い、ホーム運営に活かしている。4月度の避難訓練には消防・民生員・包括にも参加してもらい、緊張感のある訓練を実施している。	運営推進会議は地域包括支援センター職員、民生委員、家族には毎回、出欠を募り参加してもらっている。ホームの現況報告や行事、利用者の状況などが報告され、出された意見をサービスの質の向上に活かしている。家族への評価状況の報告も郵送され、地域住民参加の消火訓練なども行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	日常的に地域包括支援センターと連携を取っており、情報交換を積極的に行い、サービスの質の向上に努めている。	地域包括支援センター職員と日常的に情報の交換が行われている。生活保護受給者の利用相談や感染症などの情報提供を得て市との連携体制も構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的なミーティング等で、勉強会を行い、利用者の状態に応じた対策を検討している。その上で、家具や布団等に鈴をつける必要があれば、家族の同意を得た上で行うようにしている。	身体や言葉による拘束については月一回の全体ミーティングで勉強会を行い全職員が正しく理解している。日中は施錠をせず、職員間の連携で利用者の安全で自由な暮らしを支援している。夜間の勤務時間を短くし職員の疲労やストレスを軽減する工夫もなされ、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	常に職員同士で連携を取りながら、利用者の観察に努めている。身体介護（入浴・排泄等）を中心に観察し、小さな変化も出来るだけ見過ごさないように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	出来るだけ研修に参加し、月2回のミーティングにて、研修者を中心に勉強会を実施している。その他研修等に管理者等が参加し、ミーティング時に職員との情報の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	解約については、急変に基づいたものが主となる為、医療機関と連携し、密な情報交換をすることで家族との検討を進め、理解に繋げている。契約時には介護保険の説明や大体の月額等も説明するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の意見が多く聞けるようにホーム内に意見箱を設置している。また、担当者会議や面会などでは常にホーム側から声掛けするようにし、家族等が意見を言いやすい環境を作るよう努めている。毎日報告を密に行い、重要事項又は緊急事項に関しては即決している。	運営推進会議や面会時に声掛けを徹底し、ホーム内の意見箱設置で家族の意見、要望の出しやすい環境を作っている。家族から得られた意見はミーティングで具体的な取組みを話し合いサービスに反映させている。ホーム便りや電話で利用者の状況報告をし、また苦情や相談も外部に表せる場もあることを説明している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に行われるミーティングで職員からの意見や提案があれば、検討の上、運営に反映している。管理者は、毎日9時と2時にバイタルチェックの報告を受け、同時に職員の声に耳を傾けて運営に反映している。	定期ミーティングで職員からの意見や提案を聞き運営に反映させている。利用者の笑顔の写真掲示や、イベント時の相撲の寸劇は利用者の楽しみであり、職員のアイデアが活かされた場面でもある。管理者は資格取得にも積極的でありホームの決定事項も報告され職員の育成に努めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	現場で起きている様々な状況や変化を出来るだけ把握し、職員が疲れやストレスを溜めこまないように配慮し、職員が向上心を持って働けるような環境作りに努めている。夏期には1ヶ月に1回を目標に職員全体の食事会を開催している。		

鹿児島県 グループホームさくら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の各段階に応じ、必要な研修については参加を勧め、その内容について園内ミーティングにて職員全員が共有している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣のグループホームとの交流を持ち、運営状況についての相談・連絡を行うことにより、サービスの質の向上を目指している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談で本人の生活水準を出来るだけ把握するように努め、傾聴の姿勢を大切にし、本人との関係作りに努めている。また、家族にも情報提供の協力をお願いしている。食事嗜好調査を実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望、方向性等、家族が何を求めているのかを把握し、不安があればできる限りその不安を軽減できるように調整し、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況、生活状況を把握し、必要があれば医療機関等、その他の機関との調整を行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の性格、今まで過ごしてきた過程を尊重し、本人のペースに合わせ、訴えを傾聴し、時間をかけて関係作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常生活や変化を出来るだけ細かく報告し、ご家族の思いや意見を取り入れ、本人と一緒に支えていく為の協力関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴を大切にし、墓参りや法事等、家族の協力を頂き、馴染みの人や場所等との関係が途切れないように支援している。	利用者の身体状況に伴い外出の機会も少なくなってきたが、家族の協力をもらいながら、墓参りや法事、美容院の帰りに外食を楽しんでいる。小規模多機能ホームとの合同行事を多く盛り込み、触れ合いの場をつくるなじみの人や場所との関係が、途切れないように支援に努めている	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の心身状況や感情でもお互いの対応の仕方が変化する可能性がある為、職員は常に注意深く観察し、利用者同士の関係がうまくいくように調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に入院加療となった方へは、定期的に家族と連絡を取り合い、訪問やモニタリングを実施している。また、相談内容に応じて紹介や調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で、出来るだけ多くコミュニケーションを取るように努め、その中で利用者の意向や希望を感じ取り、本人にとって最適な生活に近付けるように努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努め、意思疎通が困難な利用者にもその都度、表情や所作から根気強く思いや心を汲み取る努力をしている。職員も情報を共有し家族の希望に添えるよう利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期アセスメントの中で記録化し、スタッフ間で共有している。まめに家族と連絡を取り合い、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの少しの変化を出来るだけ注意深く観察し、本人のペースを尊重しながら援助している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を実施し、各専門職や家族が様々な意見を出し合い、本人にとってより良い生活に近付けるよう計画を作成している。ミーティング時のKY活動により安全にも十分配慮している。	定期ミーティングで利用者の状態を医師や各専門職と情報交換し、モニタリングを実施している。ホーム独自の、個別危険予知活動を作成し、利用者のリスクを数値で換算した資料は、評価、見直し時に有効に活用され、現状に即した介護計画の作成である。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録の中で状態に変化があれば、その都度ミーティング内で話し合い、計画に反映している。急を要するような場合には、適宜、個人に合ったケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の日々変化する状況に応じて、職員全員がその変化を共有し、その時々で最善のケアを提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のプライバシーに配慮しながら、ボランティアや学生の慰問を積極的に受け入れ、年間行事では各関係者へ協力を依頼している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、かかりつけ医による適切な医療が受けられるように支援している。また、専門の医療機関との連携も行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診をしているが、ホームの協力医の往診もある。緊急医療機関や専門医療機関との連携も取れており、利用者や家族の安心が得られ、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員を配置し、常に利用者の健康状態や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、必要に応じて顧問医師等に電話連絡を取り、指導をもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際は、出来るだけ本人の混乱を避けられるよう、医療機関との情報交換を行い、なるべく早期に退院できるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時にホームで行える最大限のことを説明し、状態変化の都度、家族やかかりつけ医と検討し、方針を共有して支援を行っている。</p>	<p>重度化や終末期に向けたホームとしての対応を入居時に本人や家族に詳しく説明し、また文章化し同意を得ている。利用者の身体状況の変化に応じて医師も含めた家族、職員との話し合いで方向性を共有しホームとしての最大限の支援に取り組んでいる。現在、看取りまでを希望している利用者もいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>園内ミーティングにて、急変時での応急手当に関する勉強会を実施しており、日常的にも看護師により他職員に指導している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練、火災訓練を実施し、消火器位置や避難経路確保等の設備点検も行い、緊急連絡網を作成している。自家発電を整備しており、災害時には地域住民に対し、ホームを開放し、寝泊りできる環境を提供している。</p>	<p>消防署指導のもと隣接した小規模多機能ホームと合同の災害訓練を年2回実施している。地域住民の参加も多数あり、避難経路の確認、通報、消火訓練など緊急時の意識を高める訓練になっている。自家発電の設備、スプリンクラー、備蓄もあり、ホームを地域住民の避難場所として開放する準備もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に低姿勢（利用者と目線を合わせる）での会話を指導しており、利用者に対して敬意を持って話しかけるように努めている。記録物等は他者の目につきにくい場所に保管し、居室への訪室にも細心の注意を払っている。	利用者の人格の尊重とプライバシーの確保を大切に、目線を合わせた会話や、言葉遣い、また個人の名前の掲示を控えたり、羞恥心への配慮をした対応になっている。管理者で個人情報の管理も適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が安心できる雰囲気作りを目指し、利用者が自分の思いや希望を自然に表現出来るような信頼関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの人生経験を尊重し、生活歴、環境も含めたその人らしさを検討した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	希望者には2ヶ月毎での訪問散髪を実施し、服装、洗顔、整髪、爪切りなどの身だしなみには常に気を配るように努めている。好みの化粧品等を持参の方もいるので、使用を勧めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルで食事をして、会話を交わしながら、楽しい雰囲気作りに努め、食後はテーブル拭きやお膳拭き等をお願いしている。また、食事嗜好調査を活かした食事の提供を行っている。	栄養士の管理のもと嗜好調査を反映した食材での献立作りであり、冷凍食品は一切使用しないという管理者の思いがある。花見や行事食は外からの注文で目先を変えたり、食後の片付けを手伝ってもらうなど、食事を楽しむ工夫や支援になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と摂取量を把握し、栄養士による栄養バランスを考慮した食事を提供している。水分の摂取に消極的な方にはお茶以外の代替え品を提供し水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれに合わせた口腔ケアを行い、就寝時は義歯をはずして洗浄、消毒を行い、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を参考に、利用者それぞれの排泄状況を把握した上で、時間誘導や声かけを行うなど自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、タイミングと早めの声掛けで、自立に向けた排泄の支援を行っている。失禁時はさり気なく居室へ誘導し、スチーマーケースで温めてはかすなど、冷えの配慮と清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に食事やおやつに入れる食材にも工夫している。特に、繊維物の多く含まれる芋、バナナをうまく使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとりに合わせた入浴時間や、状態を把握した上で入浴して頂いている。本人の着たい物を一緒に選んで着て頂く等、入浴を楽しんでもらえるように配慮している。	利用者の希望を考慮し週3回の個別入浴であるが、健康状態に合わせ、清拭、足浴、シャワー浴もあり、時間帯や順番にも配慮している。入浴をためらう利用者には気分転換を図り、入浴剤で楽しんでもらうなど個々に応じた入浴の支援となっている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの状態に応じ、安静を援助したり、照明や寝具を調整し気持ち良く眠る事が出来るように支援している。 また、日中はなるべく体を動かして頂いている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の増減が有れば必ず朝のミーティング等で申し送り、職員は服薬状況把握している。 施設毎に個人の処方箋を必ず置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴、趣味に合わせた支援（読書や歌等）を行い、日々意欲的に過ごしてもらうように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日等、出来る限り外に出られる人は中庭や敷地内の散歩をスタッフの介助の下、楽しんでもらっている。墓参りや法事等、家族の協力を頂く等して外出の機会を増やせるように努めている。	身体状況により車椅子や歩行介助で散歩や園庭での日光浴など自由に散歩できる環境にある。桜の季節にはあずま屋での花見を楽しんだり、ボランティアの受け入れで五感の刺激や気分転換を図っている、家族の協力をもらい墓参りやドライブなど出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症もあり自己管理が難しい為、預り金としてホームで管理し、出納帳をそれぞれ作成し、家族にも確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	発語が困難な方もおり、電話での対応には無理があるが、手紙等については家族の承諾の下、スタッフが代読する場合もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光は、ブラインドで適正に調整している。 玄関や受付、洗面所には季節の花を飾り、四季を感じて頂いている。 トイレには、西日対策とプライバシー保護の為、すだれを用いている。	玄関外入り口には椅子が置かれ避難訓練時など利用者が休めるスペースが確保されている。廊下の壁には利用者の折り紙などの作品が飾られ、ゆったり過せる堀ごたつの畳間もあり、テラスからあずま屋に出られる造りである。ダイニングからは茶畑や田園風景を眺めることができ、居心地よく過せるような共用空間である。	
		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり	玄関、リビングにはソファを置き、		

鹿児島県 グループホームさくら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごして頂いている。 和室となっている談話室には、掘りゴタツ、ソファがあり、一人ひとりが望む場所で過ごせる。また、テラスから外へ出る事もできる。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた寝具や時計、写真、アルバム等を持ちこんで頂き、心地よい環境で過ごして頂いている。</p> <p>本人のペースで片付けて頂き、なるべく手を加えないようにしている。片づけられない方については障害物や危険物の除去に努めている。</p>	<p>大きな出窓とベッド、タンス、洗面台、トイレも設置され、広々とした空間がある。利用者は使い慣れた時計や愛着のある写真やアルバムなどを持ち込み、なじみの空間に近づけている。利用者の身体状況に応じて動線にも配慮し、本人が居心地よく過ごせる工夫が見られる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要な箇所には手摺が設置してある。</p> <p>認知度の低い方の為に、目線の高さにトイレの表示をしている。</p> <p>通路は、歩行や移動、活動の妨げにならないよう、障害物を除いている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームさくら

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームさくら

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない